

名古屋共立病院が部門賞

アジア医療誌主催のアワードで

医療法人偕行会グループ（本部名古屋市）が運営する名古屋共立病院（名古屋市中川区）は、アジアの有力医療誌、ヘルスケア・アジア誌が主催する「ヘルスケア・アジア・アワード2025」で、「日本における年間最優秀メディカルツーリズム病院部門賞」を受賞した。外国人患者受け入れへの取り組みが評価された。

ヘルスケア・アジア・アワードは、従来の枠を超えた医療サービスを提供し、地域社会に永続的な影響を与えているアジアの病院を表彰する賞。受賞により、病院の国際的な認知度や信頼度が高まる。10日には、マレーシアのルネッサンスクアラ Lumpur ホテル & コンベンションセンターで授賞式が開催された。

登壇した医療法人偕行会の山田哲也理事長は「今回の受賞は、医師や看護師、その他スタッフの献身と日々の研さん、情熱の結果だ。偕行会グループを信頼して下さった患者さまに感謝する。革新を続け前進し、今



スピーチする山田理事長

後もメディカルツーリズム（医療観光）のリーディングホスピタルとなれるよう、努力を続ける」とあいさつした。

名古屋共立病院は、院内

掲示物や案内表示の外国語表記に、専門診療フロアの設置、5言語に対応できる通訳体制など、外国人患者の多様なニーズに応えるサービスを拡充してきた。2014年から外国人診療を開始し、これまでに累計1万8千人以上の外国人患者を受け入れている。

中部経済新聞の許可を得て掲載しています

2025年04月18日 004面 01版 No.03



C 中部経済新聞社